

知立駅周辺 まち育て ワークショップ

振り返り通信 vol.03

第3回
知立駅周辺エリア
まち育てワークショップ
の報告です。

2022年
12月10日(土)
13:30～16:00



未来のすごし方を創造しよう(1)

働く、住む、訪れる人の「いいね！」が
あるまちとは



全5回ワークショップ

第1回

10月15日(土)
こんな地域がいいな

第2回

11月19日(土)
まち歩きで未来を想像しよう

第3回

12月10日(土)
未来のすごし方を創造しよう(1)
—働く、住む、訪れる人の「いいね！」があるまちとは—

第4回

1月14日(土)
未来のすごし方を創造しよう(2)

第5回

2月18日(土)
未来のすごし方を創造しよう(3)

これから姿を大きく変える知立駅周辺エリアの未来を
みんなで考え、暮らしやまちを豊かにするための連続
ワークショップを開催しています。(全5回)

12月10日に開催された第3回では、市民、学生、専門家、
行政、約30名が集まりました。先進事例や様々なシーンの
写真をヒントにしながら、「いいね！」と思える「未来
のすごし方」について話し合いました。参加者からは人の
ふるまいや空間の視点から、駅周辺の豊かな未来のまち
について沢山のアイデアが出ました。未来のまちで、大
事にしたいコンセプトが見えてきた会となりました。

当日の流れ

1



振り返りと事例紹介

第2回の成果を確認した後、公共空間を中心とする先進事例について解説がありました

2



グループづくり

自分の関心事を白紙に書いて、似た仲間を見つけるワークで、5グループができました

3



写真選び

卓上の42枚の写真から、自分が“いいね”と思う「未来のすごし方」に近い1枚を選びます

4



すごし方カードの記入

“いいね”の理由を各自記入します

5



語り合い

カードを発表しあいながら、未来のすごし方について掘り下げます

6



タイトル決め

コンセプトにあたるキーワードをタイトルにまとめます

7



全体発表

班の成果を全体で共有します



知立と言えば東海道 39 番目の宿場町。宿場町は人やモノ、情報が行き交う拠点であり、旅の癒しを得る場所。知立駅を利用する人に現代版宿場町として何を提供するか？知立の歴史からコンセプトを描き、取り組み、発信することで、「知立らしさ」をより深めていきたい。

知立らしさ、東海道らしさを開発のコンセプトに据える



- 『宿場町＝宿泊、滞在する場所。物流の拠点。旅の癒しを得る。休憩や安らぎ。補給する。人やモノが交流する』
- コンセプトに共鳴した魅力的な人やお店が知立にやってくるようになる
- 本物の素材や知立の歴史（事実）に根差したものを活用し、デザインやアート、色（かきつばた）や素材で表現する
- からくりなどを見れる・触れられる・紹介することで山車文化を伝える

再開発される駅前と東海道の歴史史跡をつなぎ、過去へのタイムスリップを楽しむ



周辺（東海道など）を
自転車で観光できる



- あたらしい駅前周辺から東海道に向けて時代をさかのぼる感覚を楽しむ
- 「東海道らしさ」を敢えてつくって、歩いて巡れるようにする
- 都築屋さんは南北線の開通でどうなるのか？移築や資材活用などで名残を残せないか
- 歴史を感じられて気軽に日帰りできる知立へ、駅を中心に全方位的に導く工夫を考える

知立の魅力を映像を通して発信し、世代を超えてみんなで楽しむ



映画や知立の古い写
真を集めて上映し、
みんなで共有する

- 電車の時間を待つ間に、若いクリエイターの知立の魅力を表現した映像作品を楽しむ
- 映像で山車文化や歴史を伝える

人が通り過ぎず留まる、滞在できる空間をつくることで、にぎわいが生まれる



滞留するしかけを！



歩道を利用した
ミニゲームなどを
して楽しむ

- 自然を感じる空間、水と緑、ベンチ
- 本屋やカフェなど時間をつぶせる場所や空間をつくる
- 普段は休める場所で、イベント時は店舗を設置してにぎわいを創出する
- 改札のなか（駅なか）であんまき販売や飲食、ユニークな自販機の設置など
- 乗り換えの人が立ち寄るような、楽しさや癒しを提供したい

やりたいことが出来る、誰もが楽しめる公園で地産地消&ヘルシーを



- 地元の野菜や果物を買って、簡単なランチを子どもとつくって公園で食べたい
- キッチンカーや屋台などが出店し、地産地消ができる
- 高架下など雨をしのげる。全天候の開閉式の屋根をつけてみる（太陽光エネルギーを活用する）
- やりたいことが出来る場所をつくること
- 子どもが安全で楽しみながら体を思いっきり動かす場所

市民が参加できるしかけをつくる

- 愛着がわくように歩道ブロックに手形をつけたり、名前を入れたりする

- アート作品が展示されているプロムナード（歩道）にする
- 市民がつくった作品が展示できるようにする

生活における駅の位置づけは人によって違う。今は駅を全く利用しない人もいる。すでに駅周辺を利用している人たちにとっては、日々当たり前にあるシーンが営まれる場（つねづね）であり、あまり駅を利用しない人にとっては特別なシーンに駅前を選びたいような駅前（わざわざ）にしたい。その核として、知立祭・山車文化という地域の伝統を日常的に感じられる駅前にしたい。

もっと知立祭・山車を核においた駅前の活用を。知立祭を“わざわざ”から“つねづね”に



- 知立祭りでは知立神社だけでなく駅前にも屋台や山車を！
- 駅前に広場を整備し、祭りで山車揃えをしたり、組み立てワークショップ、日常設置などがしたい
- 山車文化の若い世代への継承が課題

学生が放課後に過ごせる居場所に



- 放課後にお喋りや勉強ができるような居場所があるとよい
- 店に入らなくても道端のベンチやコンテナなど気楽な場がよい

駅に行く用事のない人が、わざわざ行きたくなる目的を作る



ゆっくり過ごせる
空間と買う、食べる

ユーモアのある、
楽しい街に！
知立発のおもしろ競技の
発明など

- 車中心の生活では、特に、子育て世代は駅に行く習慣がないので、目的のある場になるとよい
- 駅周辺は「ちょっと話そうよ」の場所がない
- 買い物ついでにおしゃれなコーヒーが飲める場所があるとよい
- 常設のスーパーではなくてよいので、マルシェ形式+地元の農家の買い物ができる場所があれば行きたくなる

部活動の発表の場に！つねづねの活動がコンテンツになる



- 学校の部活動の一環で、新地公民館でパソコン教室をしており、街中に活動の場があるとよい
- 電源とwifiとスクリーンがあればe-sportsの実演ができる
- 駅周辺を利用している人でゲームが好きな人は、駅前でe-sportsをしていれば仕事帰りに立ち寄ると思う

知立駅周辺は市の玄関口として、日々多様な人が行き来している。学生、社会人、親子、お年寄り、障がい、海外にルーツがある方。回遊を考える一方で、こうしたあらゆる人々が時間を過ごしやすき空間を追求すると、ある程度ニーズに分けた場所の整備が必要になるのではないかな。

学生、大人にとっての過ごしやすさから考える

①: 店舗が多く、一人で夜まで滞在できる空間



- 特徴的で落ち着く机や椅子が道中にあれば、仕事やたまたま知立にきた時にふらっと立ち寄りたくなり、飲食店が開業するきっかけにも繋がる
- カフェ、服、映画館、カラオケなど、駅前で滞在できる空間があると良い
- ファミリー向け、大人向けの店（ビアガーデンなど）のエリアを分けて棲み分けができると良い
- 夜に一人でいても安全に過ごせるような明るさの店舗があると良い

② 静かなワーキングスペース・学習スペース



緑があり、遊ぶ子どもが
いても気にならない
広さと屋根

- 仕事や勉強をするなら、オープンで他の人の声が気にならないような場所か、プライベートエリアのいずれか
- 飲み物を買わなくても自由に机と椅子使えるような共同スペースや、電話ボックスのような個人の区切りがあるスペースがあると良い
- 電源やwi-fiが整備されていると滞在しやすい

子ども・親子にとっての過ごしやすさから考える

自由な空間と遊具があり、雨でも遊べる場所



- 靴を脱いで走りまわれる芝生と遊具、昼食をとれるフリースペース、噴水や軒の広い施設、子育て支援施設など
- 広場の区切りが明確にあり、道路を渡らずに済む場所が安心。子どもはあまり長く歩けないため、近くに駐車場やバス停が必要になるのではないかな

多様な人の過ごしやすさから考える

誰もが気軽に座って休める憩いの場所と、地域の一体感を感じるイベント



- 緑や清潔感があり、休憩できるスペースがある憩いのエリアが良い
- カフェ、図書館機能など誰もが使う施設がまとまると良い
- 魅力的なストリートファニチャー



- 幅広い世代に歴史や文化を伝える展示やイベントなどを行い、駅利用者が東海道に足を運ぶきっかけを作りたい
- 30m 道路などを歩行者天国にするなどして祭りやイベントを盛り上げたい



「交通の要衝」から「出会いの要衝」へ。食やスポーツ、音楽、祭りなど色々な「好き」が集まり、そしてそれを育む空間があることで、様々な人やコト・モノが会う活き活きとした風景をつくっていききたい。そのために出会いのきっかけとなる機能やコンテンツを仕掛けて、新たな知立駅のまちづくりの機運の高まりを風景や人の営みから感じてもらいたい。



昼も夜も賑わう場所や仕組み



- 夜だけでなく昼も賑わうことを意識する
- 昼は美味しいコーヒーやパン等を食べながらゆっくりと過ごす
- 夜は飲食店が建ち並ぶ風景や外観の意匠で高揚感を演出
- 香りや音など、徒歩だからこそ気付ける楽しみを感じられる場所や通りに



ハードのスケールに合わせた賑わいの見せ方



- 通行量は以前と同じでも、道路幅が広がると風景的に寂しく見えてしまうのではないかと懸念
- 春の「知立まつり」や秋の「秋葉まつり」など、広さを活かしたダイナミックな利活用
- 風景から新しい知立駅周辺の機運の高まりを効果的に見せていきたい



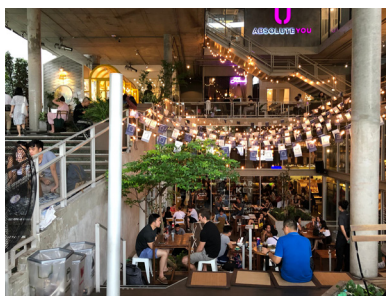
フレキシブルな空間と活動



- 3on3やモルック、スケボーなど少人数で競技を楽しむエリアをつくりたい
- 仮設で簡単に準備できる機材や設備により、空間の使い方を限定しない仕組み
- 音を出してもよい空間づくり、周りの理解と音を出す側の思いやり（指向性スピーカーの使用等）



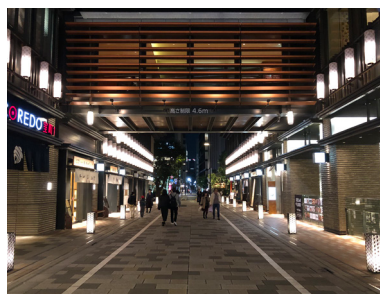
広域の人が交わる拠点



- 歴史的にも交通の要衝として栄えた立地を活かして西三河や愛知県全体から人を呼び込む
- 鉄道だけでなく、バスターミナルや広域路線の拡大により広域の人の出会いを誘う
- 掲示板で人々が連絡を取り合った時代もあった、現代版に読みかえてデジタルサイネージを設置



高架下や通りのあり方



- 幅広い高架下をモールのように練り歩きたい
- 洗練された外観や空間デザインも重要



皆さんが癒しを求めている時代。駅の利用者は特に忙しいからこそ、緑と広がりのある空間で「ボーっと過ごす」ことができると良い。単に賑わいだけを求めるのではなく、地産地消マルシェや疲れを癒すカフェ・店舗、本などの文化、シェアモビリティ、EVバス、再生エネルギーなど、賑わい・経済・環境の好循環を生み出す街でありたい。



ボーっと過ごすことのできる、緑と水と開放感のある広場



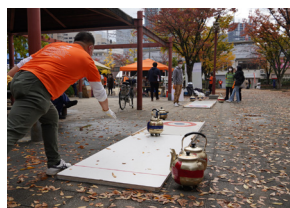
明日の活力をチャージするのに
必要な要素

- ①駅からおりて広がりのある空間
- ②象徴的高木 ③水
- ④ナチュラル⑤ゆったりとした雰囲気

- 芝生、中低木、高木、様々な緑を
- ベンチに座って緑をみながらひと休みしたい
- 鉄や金属に囲まれるよりもファニチャーは木の素材か木目調が良い
- 子どもが遊ぶのを見守りながら、軒先でまったりしたい



地域性を生かしたイベント



- 派手すぎない、独特なイベントがあると楽しい
- 地元産の野菜、果物で旬な味覚を楽しむ
- 地産地消で地域内のお金の循環を生む



文化と自由がある多世代のための居場所



- 本はどの世代も楽しめるので、本のある場が欲しい
- さわりでもおこられない中高生のための場
- 道路の真ん中なら音を出してもおこられないので、若者のあつまるスポットにできる
- 子どもの笑い声があるといい



脱炭素やSDGsをテーマに、持続可能なまちづくり



- EVバス（排ガスが出ないクリーンな移動）
- 休日は車を気にせず、自動運転や速度を落としたモビリティが人と共存する道路
- 自転車も楽々通れる道

ソーラーなど再生可能エネルギーを！



全体共有の様子

全体で5つのグループの成果を共有しました。各班で特徴的なコンセプトが提起されると同時に、共通する視点も見えてきました。



- ①歴史文化・宿場町の良さを生かす
- ②緑や癒しの空間つくる
- ③日常と非日常の暮らしを計画に生かす
- ④出会いの要衝としての賑わいある駅周辺へ
- ⑤環境負荷の低い持続可能なまちを目指す
- ⑥未来のすごし方を支える仕組みを考える



今後はこれらのアイディアを「うごき」にしていくのが大切です。
次回からもお誘いあわせの上、積極的にご参加ください！



アンケートより

(1) ワークショップに参加して

- ・他のメンバーでは、日常生活を主軸に考えていたため、非常に参考となった。
- ・学生・企業・市の方等、様々な立場の人と話し合える場が貴重だった。
- ・自分と同じ意見・似た意見を持っている人と話すことで、よりプラスのイメージで話し合いをすることができた。

(2) 印象に残ったこと

- ・現代版宿場町・出会いの要衝・知立の魅力を伝える駅前。
- ・山車をそのまま展示するのではなく、イメージができるように工夫するということに新しい気づきがあった。
- ・コンセプトや場所ごとに使い方を変えるという考え方は実現性の点からも良い意見だと思う。
- ・「緑」や「環境」といったテーマでも話してみると様々な考えが出て面白かった。

(3) ぜひ実現させたいこと

- ・知立らしさを訪れた人々に認知してもらえるまちづくりを実現させたい。山車やかきつばたなど有名なことをアピールする。
- ・普段使いできる・ふっと行きたくなる公園。
- ・バスターミナル・1万人広場・高架下活用・トレインパーク。
- ・なるべく柔らかい印象の駅周辺になると良いと思う。

(4) ワークショップの運営について

- ・若い人が多く、もう少し年齢幅が広い人や職業幅の広い人の意見が聞きたい。

知立駅周辺エリアまち育てワークショップ 振り返り通信 vol.3

発行日：2023年1月14日

発行：知立市市民部 経済課 商工観光係（0566-95-0125（直通） keizai@city.chiryu.lg.jp）

8 協力：大日本コンサルタント株式会社、NPO 法人まちの縁側育くみ隊